

令和3年(2021年)11月26日
山口県病虫害防除所

1 害虫名 タバコノミハムシ (学名: *Epitrix hirtipennis* (Melsheimer))

2 発生作物名 ナス

3 特殊報の内容 新発生

4 発生経過

(1) 初確認年月日: 令和3年10月11日

(2) 発生地域: 県内全域

(3) 確認の経緯

令和3年10月11日、防府市の露地ナスにおいて、葉に小孔を開ける食害を発生させるノミハムシ類の一種が確認された。神戸植物防疫所に採集した成虫の同定を依頼したところ、山口県内では発生の確認されていないタバコノミハムシ *Epitrix hirtipennis* であることが判明した。

また、県東部でも、露地ナスにおいて同様の被害を確認している。

(4) 他県等での発生状況

本種は中央～北アメリカを原産とする外来種である。

本種は平成23年に群馬県において初めて発生が確認され、その後関東・東海地方を中心に分布が拡大した。令和元年以降は、奈良県、岡山県、広島県、高知県など近畿、中国、四国地方にも拡大し、これまでに21府県から本種の初確認に関する報告がある。

寄主としてナス、トマト、ばれいしょ等のナス科作物が確認されている。

5 本虫の特徴

(1) 被害の状況

本種の成虫は、表皮を残して食害、または葉を貫通して食害する。このため、直径1～2mm程度の多数小さな白い斑点や丸い穴の食害痕が観察される。葉が成長すると被害痕が円形の大きな穴になる。

(2) 形態

成虫の体長は1.5～2.5mm、長楕円形でやや扁平であり、密な短刺毛に覆われ、後脚の腿節が顕著に肥大している。体色はやや光沢のある赤褐色で、上翅には不明瞭な黒斑がある。

(3) 生態

成虫は刺激を受けると、後脚により大きく跳ねる。卵は地表に産み付けられ、ふ化した幼虫は地中で根を食害後、地表近くで蛹化する。成虫は落葉下などで越冬する。

6 防除対策

現在、本種に対して適用のある農薬はない。

栽培終了時には、残渣を速やかに処分する。

本虫による被害が多く発生した場合には、病虫害防除所に相談する。



図1 成虫(標本)



図2 食害中の成虫



図3 被害を受けた株(全体)



図4 被害を受けた葉

お問い合わせ先：山口県病虫害防除所

TEL (083) 927-4006

FAX (083) 927-0214

E-mail a172011@pref.yamaguchi.lg.jp